

題材計画（音楽科）

子どもたちに身に付けさせたい資質・能力を明確にし、そのための指導と評価が一体化している題材を構想する

1 題材の目標を作成する

- ・学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- ・生徒の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて作成する。

2 題材の評価規準を作成する

題材の目標「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえて作成する

題材名

音色や音の重なり方の特徴を捉え、リズムアンサンブルの音楽を楽しもう
(第1学年)

1 題材の目標

- (1) 音楽が生み出す雰囲気や表情などと音楽の構造との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
- (2) 音色、テクスチュア（音の重なり方）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
- (3) 音色やテクスチュア（音の重なり方）の違いによって生みだされる雰囲気や表情などの変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作や鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

本題材で扱う学習指導要領の内容

第1学年 A表現 (3) 創作

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。

(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

第1学年 B鑑賞 (1) 鑑賞

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

[共通事項]

本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

：「音色」，「テクスチュア」

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 音素材の特徴及び音の重なり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。 (創作)</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。 (創作)</p> <p>知 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 (鑑賞)</p>	<p>思 音色、テクスチュア（音の重なり方）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 (創作)</p>	<p>態 音色、テクスチュア（音の重なり方）の違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作と鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 (創作・鑑賞)</p>

音楽科における 題材作成のポイント

【題材名】

題材名＝教材名ではなく、どの資質・能力を育成するためにどのような活動を行うのかが分かるように工夫する。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】は、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 p 32を参照

知識・技能は、

「知識」と「技能」は、それぞれ分けて指導事項が示されていること、評価方法や評価場面が異なることが想定されることから、評価規準も原則分けて、それぞれについて設定する。「技能」については、「B鑑賞」の題材では設定しない。

思考・判断・表現は、

評価規準の文頭部分には、[共通事項] アを位置付けその題材の学習において、生徒の**思考・判断のよりどころ**となる主な音楽を形づくっている要素を記載する。生徒の実態に合わせ、要素はしぼる。

主体的に学習に取り組む態度は、

「楽しみながら」の部分は、「主体的・協働的」に係る文言であり、「楽しみながら」取り組んでいるかを評価するものではない。文頭部分には、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもてるために必要となる、興味・関心をもたせたい事柄に関して記載する。

3 題材の指導と評価の計画

この題材全体の指導の流れがわかるように書く。

3 「指導と評価の計画」を作成する

- 1, 2を踏まえ、評価場面や評価方法を計画する。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

時間	◎ねらい ○学習活動	評価規準 (評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<p>◎曲想と音の重なり方との関わりについて理解する。</p> <p>○教師が提示する手拍子の音楽を聴いたり演奏したりしながら、「リズムってどのようなもの？」という問いについて考え、意見交換をする。</p> <p>○「クラッピングミュージック」を聴き、気付いたことや感じ取ったことを発表し合ったり、楽譜で確認したりする。</p> <p>○「クラッピングミュージック」の冒頭部分を演奏するなどしながら、手拍子だけでできていること、同じリズム・パターンの中の二つの声部が規則的にずれていくことにより面白さが生み出されていることを確かめる。</p> <p>○リズム・パターンの二つの声部が規則的にずれていくことにより面白さが生み出されていることを確かめる。</p> <p>○教師が例示する3種類の2声のリズムアンサンブルの音楽を聴いたり手拍子で演奏したりしながら、音の重なり方と感じ方の違いについて話し合い、それぞれの音の重なり方の特徴を学級で共有し、声のアンサンブルの音楽をつくることを確認する。</p> <p>○本時に学習したことを生かして再度「クラッピングミュージック」を聴き、「曲想」と「音の重なり方」との関わりについて分かったことや気付いたことをワークシートIに書く。</p>	<p>知 (鑑賞)</p> <p>観察</p> <p>ワークシートI</p>		
2	<p>◎音素材の特徴及び音の重なり方の特徴について、表したイメージと関わらせて理解する。</p> <p>○手拍子、ひざ打ち、足ぶみをしながら、それぞれの奏法による音色から感じ取ったことを話し合い、それぞれの音色の特徴を学級で共有する。</p> <p>○三つの音素材と音の重なり方の特徴を生かして、4分の4拍子、4小節の2声のリズムアンサンブルの音楽をつくる。</p> <p>○音楽をつくりながら、音素材の特徴及び音の重なり方の特徴と表したイメージとの関わりについて分かったことをワークシートIIに書く。</p>	<p>知 (創作)</p> <p>観察</p> <p>ワークシートII</p>		

ワークシート I

【ワークシートIの記入例】

(鑑賞) 【知識】

○「クラッピングミュージック」を聴いて、「音の重なり方」と「曲想」との関わりについて、分かったことや気付いたことを書こう。

・二つの声部が同じリズムでも、音の重なり方が違えば、曲の雰囲気も変わるということが分かった。

「音の重なり方」と「曲想」との関わりについて、本時に学習したことを踏まえながら分かったことや気付いたことを書いている。

→「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。」例。

ワークシート II

【ワークシートIIの記入例】

(創作) 【知識】

○「三つの音素材」や「3種類の音の重なり方」と表したイメージと関わらせて、分かったことを書こう。

・2人で交互に演奏する会話しているような雰囲気が出る

音楽をつくる過程において、表したイメージと関わらせて捉えた「音素材」や「音の重なり方」の特徴を書いている。

→「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。」例。

観察

生徒の発言やつぶやきの状況などを観察し、ワークシートの記述のみでは判断できない側面を補完できるようにする。

<p>3</p>	<p>◎創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表す。</p> <p>○表したいイメージについて、実際に「2声のリズムアンサンブルの音楽」をつくる場合のイメージとはどのようなものがあるかについて考える。</p> <p>○最初にイメージを考えてから音楽をつくるだけでなく、試行錯誤しながら音楽をつくる過程で思い付いた新たなイメージを生かしたり、イメージ自体が変わったりしてもよいことを確認する。</p> <p>○どのように音楽をつくるかについて考え、つくった音楽をワークシートⅢに書く。</p> <p>○二人一組で実際に演奏したり、意見交換をしたりしながら音楽をつくり、つくった音楽について互いに助言をする。</p> <p>○つくった音楽を発表し、学級全体で作品についての意見を出し合い、自分の作品を再度見直す。</p>	<p>技</p> <p>ワークシートⅢ</p>	<p>思 (創作)</p> <p>観察 ワークシート</p>		<p>○指導に生かす評価…目標に照らして、生徒の学習状況を分析的に捉え、その結果を指導の調整や改善に生かす評価を日々の授業で行う。</p> <p><音楽をつくる際の課題や条件>や<予想される、生徒が考える「表したいイメージ」の例>については、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料p77の3時間目を参照にしてください。</p>
<p>4</p>	<p>◎音色や音の重なり方の違いによる曲想の変化に関心を持ち、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <p>○手拍子や木片の音色、音の重なり方を知覚・感受しながら、「クラッピングミュージック」と「木片のための音楽(S.ライヒ作曲)」を聴く。</p> <p>○知覚・感受したことをもとに、音色や音の重なり方との関わりについて考え、意見交換をする。</p> <p>○創作分野で学習したことを踏まえて、曲想と音楽の構造との関わりを根拠に、自分なりに解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさについての考えをワークシートに書き、発表し合う。</p> <p>○再度「クラッピングミュージック」と「木片のための音楽」を聴く。</p> <p>○「リズムってどのようなもの？」という問いについて、これまでに学習したことを基に再度考え、リズムで構成された音楽についての自分の考えの深まりや広がりについての変容を振り返り、感じたことについて学級全体で意見交換をする。</p>		<p>思 (鑑賞)</p> <p>観察 ワークシート</p>	<p>態</p> <p>観察 ワークシート</p>	<p>○記録に残す評価…指導の結果として、生徒の学習の実現状況を把握し、観点別学習状況の評価として記録する。実現状況を把握できる段階で行う</p>

学習評価の二つの側面

4 授業後に観点ごとに総括する

- ・ 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。
- ・ 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的评价（A、B、C）を行う。

○参考「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」の育成に向けて

本題材では、題材の導入と終末において「リズムってどんなもの？」と問い、自分の考えの変容や深まりを見ようとしています。ある生徒は、導入で「難しいもの。音程がないもの。」と答えていましたが、終末では「リズムは、いろいろと組み合わせることで、自分の気持ちや表したいイメージを表すことができるものだということが分かり、『リズム』への興味がわいてきた。他の音楽も、もっとリズムに注目して表現したり聴いたりしたら、いろいろな発見ができそうだと思います。」と答えていました。

本題材の目標(3)に「音楽に対する感性を豊かにする」を示していますが、このような生徒の姿から、今後の学習や生活において、音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取るときの心の働きが、より豊かになることが期待できます。

本時の授業構想をする（音楽科）

1時間の流れをつくる

身に付けさせたい力が身に付くように、本時の学習活動を計画する

2校時 音素材の特徴及び音の重なり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。

- 主体的に学習に取り組めるよう本時の目標、学習課題をつかみ、本時の見通しをもつ。
- 学習に対する興味・関心を高める。

- 本時の学習活動を通して、本時で身に付けさせたい力を身に付ける。
- 教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる活動をする。
- 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする。

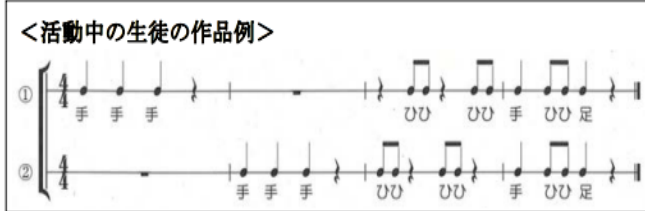
- 本時の目標に対して、分かったこと等を言葉にするなどし、次の学びにつながるようにする。

音楽科における授業構想のポイント

- 音楽的な見方・考え方を働かせている生徒の姿を具体的にもち、授業を計画する。
- 思考・判断のよりどころとなっている主な音楽を形づくっている要素を生徒の実態に合わせて、しばって設定する。
- 生徒が「分かった」「身に付いた」と実感できる場面を設定する。
- 授業終末時に生徒が資質・能力が身に付いた姿をイメージし、終末に向けて学習活動を逆算して計画する。

	学習内容・学習活動	教師の指導と留意点	評価規準・評価方法
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 前回の授業の確認をする。 本日のめあてと活動の流れを確認する。 3種類のリズムアンサンブルの例示（ユニゾン、コール&レスポンス風、カノン風）を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りを活用するなどして、生徒の以前の学びから本日のめあてにつなげるようにする。 実際に例示を演奏することで、音の重なり方の特徴を確認し、授業への興味・関心を高める。 	
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> 手拍子、ひざ打ち、足ぶみをしてそれぞれの音色の特徴をワークシートに記入する。 音色について感じとったことをペアで共有する。 ペアで話したことを全体で共有する。 三つの音素材3種類の音の重なり方の特徴を生かして2声のリズムアンサンブルを作る。 つくったリズムアンサンブルをペアで演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> 表したいイメージと関わらせて捉えた「音素材」や「音の重なり方」の特徴を具体的に書けるように説明する。 実際に叩いてみることで実感をともなった理解を促す。 共有する活動を通して、音色の特徴への理解を深める。 創作活動を通して、音の重なりと音色を実感をともなって理解させる。 	<p>【知識】</p> <p>観察</p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 音素材の特徴及び音の重なり方の特徴と表したいイメージとの関わりについて分かったことをワークシートIIに書く。 		<p>【知識】</p> <p>ワークシートII 創作</p> <p>音素材の特徴及び音の重なり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。</p>

音素材や音の重なり方の特徴の理解については、2声のリズムアンサンブルをつくる過程で、リズム楽譜に書き表したりつくった音楽をペアで演奏したりしている際の、音素材や音の重なり方の特徴についての発言やつぶやきの状況などを観察し、ワークシートだけでは判断できない側面を補完できるようにする。



「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

三つの音素材や3種類の音の重なり方について実際に試すように促し、どのような感じがしたかについて問いかけながら、学級全体で共有したことを確認する。また、音楽をつくる過程で分かったことについて対話するなどしながら、生徒が自分の言葉でワークシートに書くことができるように促す。

2声のリズムアンサンブルの音楽をつくる過程において、表したいイメージと関わらせて捉えた「音素材」や「音の重なり方」の特徴について、おおむね妥当な内容を書いているか。

→「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校編音楽』（令和2年3月国立教育政策研究所）を基に作成